

会議録

会議の名称	男女平等推進センター企画運営委員会 平成26年度 第23回
開催日時	平成26年4月19日（土曜日） 午後1時から午後3時まで
開催場所	男女平等推進センター1階活動室
出席者	委員：齋藤委員長、加藤副委員長、田崎委員、松本委員、本橋委員、金子委員 欠席：鶴崎委員、成田委員 事務局：日下部課長補佐、渡邊主査、杉山主査
議題	(1) 第22回企画運営委員会会議録（案）の承認について (2) 平成26年度上半期週間行事及び講座(基礎・共通)の企画について (3) センター年間事業計画の作成 (4) 次年度への申し送り事項の検討について (5) その他
会議資料の名称	(1) 第22回企画運営委員会会議録（案） (2) 平成26年度上半期週間講演会の講師資料 (3) 平成26年度センター企画運営委員会年間事業計画(案)
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>事務局： 報告</p> <p>(1) 4月11日開催の男女平等参画推進委員会の報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西東京市第3次男女平等参画推進計画の配布 ・4月24日西東京市第2次男女平等参画推進実績評価報告の市長への答申 ・委員の任期替え(7月31日新委員) <p>(2) 男女共同参画週間講演会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料にあるとおり、白河桃子氏との講演を交渉中。日にちは6月28日(土曜)で確定、講演1時間と質疑応答の時間割で白河氏から回答があった。開演時間については、調整中である。「事務局へ要望」 ・講演時間が1時間というのは短い気がする。講演内容等を精査し、妥当な時間を調整するように。 ・タイトル「婚活・妊活時代を読む」では、年齢層や当事者において限定的なイメージが出てしまうので、対象者の枠が広がるように、また、興味を引き出せるようなテーマにしてほしい。例えば、「仕事、結婚、出産、女性のためのライフプランニング」のように (3) 男女平等推進センター企画運営委員の任期満了に伴う改選について ・4月15日号市報及びホームページに委員募集（締切日5月15日(木曜日)、作文の提出「男女平等センターの認知度をあげる方法について」等々）を載せた。 <p>議題 (1) 第22回企画運営委員会会議録（案）の承認について</p>	

- ・会議録の内容は全員異議なく承認された。

議題(2)平成26年度上半期週間行事及び講座(基礎・共通)の企画について

・男女共同参画週間の講演会については報告のとおりであり、パネル展示については検討中であることが報告された。行事の実施までの取り扱いは事務局に一任することとする。

前回の運営委員会で企画提案を募集した「男たちの土曜塾」は「男塾」として平日に実施する。男塾の内容は6月第3週に西東京市の郷土史に詳しい講師による講座と町歩き(2回講座)、郷土に関連した男の料理作り(健康課とのコラボ)、社会的孤立や格差社会の解消を研究されている講師による講座の開催に向け取り組む。

「女性学」は、9、10月中に、ジェンダーとは？女性に関係する深い法律をわかり易く解説してもらえる内容の講座と、臨床心理士による心のストレス対処法についてを話してもらった講座、知識だけではない人権の理解をすすめるために憲法学についてを学ぶ講座の3講座を調整完了順に開催していくこととする。

「夏休みのパパ企画」については、委員の知人による段ボール列車を作ろうの指導を調整でき次第の日程で実施することとしたい。

その他映画と座談会の企画について「うまれる」の映画の上映については、事務局で調査したところ、現状では実現が難しいようであるが、今後さらに検証し、他のものも視野に入れた内容を次期委員と検討することとする。

議題(3)次年度への申し送り事項の検討について

・前回の運営委員会で提言の1.他課とタイアップした企画ができないか。2.パリの外でイベントを行う。3.平成25年度は市民会館で講演会を開催したが、必ずしもパリを広めることができたか。4.イベントに参加した参加者が広めてもらえるようにすること。5.事業報告をパネル展で田無・保谷庁舎で行うこと。6.パリ内のパープルリボンタペストリーの常設展示を行うこと。7.市民が集まっている場所へでいき広報することを、事務局で現状分析の上、具体化につなげる方針を示し、次期運営委員会に申し送ることとする。

議題(4)その他

・昨年情報誌パリの作成に携わった感想として、委託業者が替わると委員の編集意図を伝えることが、なかなか難しい事が感じられた。また、委員がやるべきことも前と今とでは違って、以前の業者との間では、この部分は業者がすることだと了解していたことが、今回の業者においては、自分たちがその役目を負うこととなったことがあった。

しかし、今の業者自体が劣っているわけではなく、平成26年度に同一業者を指名してもらえれば、編集の流れが一通り理解できており、昨年度にプロポーザルで選定された業者でもあり、編集においては一定の目標が体现されたと評価でき、お互いの意思疎通がかなり図れるはずである。ここで新規の業者が携わるとなれば、また、一からやり直しとなり、充実した情報誌を作るどころか形を整えるだけで、一年が費やされる可能性が大である。

これらのことから、次期委員において課せられるであろう内容のステップアップを実現するためには、できるだけ前年と同一の業者を希望し、かつ来年以降複数年(最低3回)の継続性を業者の選定において担保していただきたいことを、今期委員一同の決議として報告する。

委員ご一同、お疲れ様でした。

(閉会)

